



よこと館だより



Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 うめ草④

～「呼称」は関係性を表す～



職員の皆さん、どうぞ私に声をかけるときには「理事長！」、あるいは「橋本理事長（さん）」と呼んで下さい。皆さんにしては「橋本さん」とは呼び難いですよね。呼ばれる私も、職員さんから「橋本さん」と呼ばれるには多少の違和感もあります。「理事長」は職名ですから例え新任職員さんからでも「橋本理事長さん」と呼ばれるのに抵抗感は全くありません。

そこで敢えて職場でよく使われる「先生」という呼称を考えて見ましょう。「先生」とは広辞苑には「①先に生まれた人。②学徳の優れた人。自分が師事する人。またその人に対する敬称。③学校の教師。④医師、弁護士など指導的立場にある人への敬称。⑤他人を親しみ、またはからかって呼ぶ称」とあります。

先生とは、読んで字のごとく先に生まれた人、つまり年長者につける敬称です。それが転じて、教師のように尊敬されるべき人に使うようになったのです。儒教の教えで、年長者や知識人を敬う用語だからです。

実際に先生という呼称は、医師、弁護士、教師、政治家等々国家資格を持って「士（師）業」を営む専門家や、人々の上に立つ、尊敬される偉い人への呼称のようですね。

私達の仕事、社会福祉（ソーシャルワーク）では人と人との関係性を基盤に支援・援助を理解します。上から目線でない、価値観としての対等性です。だから「共感」とか「共に生きる」、「共に育つ」というような概念を大切にします。それが近代の福祉の理念なのです。

どうぞ私には「先生」という呼称ではなく、職名で呼んで下さい。たまたま理事長職にあるソーシャルワーカー（SW）というだけなのですから。

理事長 橋本正明



事業本部長メッセージ

枯葉が舞い、冬至に向かい日が短くなっています。先月 11 月 10 日（土）、約 220 名にのぼる常勤職員が一堂に会し、保育事業本部合同研修会を開催しました。今年度を振り返り、中長期計画も踏まえて業務執行状況を確認しています。ガバナンス、保育事業本部としての“働き方改革”、ICT による業務改善、保育の標準化に向けた取り組み等です。各施設の保育を把握するための巡回訪問の報告をふまえ、共通の保育目標として『生き生きとした子ども』、一人ひとりが輝く保育をめざすことを確認。専門委員会中心にグループ討議等を行ない、来



研修会当日の集合写真

年度計画に向け課題を共有してそれぞれの学びを深めています。

今後は、職員がキャリアを重ねていけるよう研修を体系化し、「伝達研修」「ミニ研修」「交換研修」等によって、より連携を密にして合同研修会のあり方を検討することになっています。年末を控え、皆様どうぞご自愛下さい。

保育事業本部長 稲永勝行



事業本部情報

児童事業本部

木々が赤や黄に色づく秋の11月を「児童虐待防止月間」として国が定めており、今年も各地で様々な活動がおこなわれました。代表的な活動の1つにオレンジリボン運動があります。2004年に栃木県小山市で起きた子ども虐待死事件を発端として、いくつかの有志団体により2005年に活動がスタートしました。このオレンジ色は子どもたちの明るい未来を表しているといえます。この啓発活動が始まって十数年、子どもたちは今、何色の未来に生きているのでしょうか？相談対応件数を見れば、34,000件/年が133,000件/年に増え、虐待によって命をうばわれた子どもは年間100名弱を安定？推移している状況です。この間、法律は幾度も改正され、対応する仕組みも刻々と変化をしてきています。東京都においても、最近の痛ましい事件に端を発し、児童虐待防止とその対応を講じた条例作りが佳境をむかえています。ただ、法律や仕組みを創ることはできても、気になる隣人にひと声かけることの方が難しいような地域社会では、先は見えてしまいます。何より殺された幼い子どもの命を教訓としなければならない社会のありよう自体、もう終わりにすべきではないでしょうか。

法人の職員として、地域の一員として、そして、人として、身近なできるところから…。
さあ、始めましょう！
(児童事業本部 至誠学園 施設長 石田芳朗)

保育事業本部

「生き生きとした子どもをめざして」保育事業本部の保育目標です。11月の合同研修会で保育目標について共通の理解を深めました。これは事業計画の「保育事業本部、一体的運営と保育の標準化の取組」に向けての一部で、正岡本部長補佐、和田上諏訪の森前園長に11園を巡回していただき、「子どもの権利は守られているかしら」「生き生きとした姿はなんだろうか」「子どもが主体となった保育ができていくかしら」など保育の土台となる部分を深めました。職員全員で保育の土台を再確認できたことは標準化に向けての大きな力となります。

又、1日の生活の中から「子どもの生き生きとした姿を発見しよう」と動画や写真を視聴し、具体的な保育実践のイメージを持ちながら、グループディスカッションを行い、お互いの気持ちを伝え合い、「来年度の計画」に繋げていきたいと職員一人一人の心が動かされた一日となりました。「生き生きとした子どもをめざして」と共に「生き生きとした職員をめざして」来年度の保育事業本部の計画に繋げていきたいと思っています。

(保育事務局長 長谷川育代)

高齢事業本部至誠ホーム

JR国分寺駅の南側徒歩15分程の場所に開設以来13年目の至誠ケアセンターもとまち(①地域包括支援センター・②居宅介護支援・③デイサービス)があり、JR国分寺駅北側徒歩10分程の場所には開設6年目の④地域包括支援センターほんだがあります。至誠国分寺ケアセンターはこの①～④の事業で構成されています。

国分寺市からの委託業務である地域包括支援センターもとまち及びほんだでは様々な機関や地域住民と一体となり利用者やご家族を支援する地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいます。老人クラブなど様々な団体の会合やイベントに出席させて頂く機会がありますが、市からの委託業務であっても至誠ホームの職員として「まことの心」を大切に地域住民の皆様と関わっています。勿論、国分寺ケアセンターのケアマネジャーやデイサービスの職員についても同様です。

これからも国分寺市民の皆様から国分寺ブロックの全事業所が更なる信頼を得られるよう頑張っていきます!!
(至誠国分寺ケアセンター長 長畑達也)

本部事務局だより

日産自動車のカルロス・ゴーン会長が、同社の有価証券報告書に自身の役員報酬を過少に申告した疑いがあるとして、金融商品取引法違反(有価証券報告書の虚偽記載)の疑いで東京地検特捜部に逮捕された。事件の全容(動機や詳細な手口、損害の規模)の解明は、これからの捜査の進捗を見なければならぬが、日産のガバナンスと言う観点から見た場合、どうだったのだろうか？

ある経営者が「ガバナンスとは何ですか？」という問いに対して「ガバナンスとは社長をクビにするかどうかだ!!」と喝破した。それを読んで「なるほど、ある一面では、その通りだな!」と感心した覚えがある。その観点から見た場合、日産はゴーン会長をクビにしたわけだからガバナンスは機能したとも言える。惜しむらくは、なぜもっと早く出来なかったか？虚偽記載を指示された関係者は判っていたはずではないか？という点ではガバナンスの効果は遅効性があるといわざるを得ない。

翻って、一年を振り返ると、日馬富士暴行事件から始まり、日大アメフト部、日本体操協会や伊調選手へのパワハラ問題、東京医大不正入試問題等々組織のガバナンスが問われた問題が数多くあった。その中で組織のトップがガバナンスの責任を取ったのはどの事件だったろうか？いまだにトップがクビになっていない組織に明るい未来はないだろう。

(法人事務局 局長 野島忠幸)

<編集後> 街はイルミネーションに彩られ始めました。今年は平成最後のクリスマスですね! 何事も「最後」と付くだけで、特別感が増す気がします。皆さまも体調など崩すことなく、specialな時をお過ごし下さい!